

道路行政について

矢崎 悟 議員

○ ミナトスイミング前の道路の出入口から南鎌ヶ谷地区の変則5差路までの道路は、木下街道と並行する狭い道路で、木下街道が渋滞する朝夕の時間帯に抜け道として利用する車両が多く、一方通行や時間帯の通行禁止規制など安全対策を求めるご意見を周辺住民から伺いますが、当該箇所における安全対策について伺います。

○ 規制に際しては、道路の交通量や事故件数、事故原因、迂回路の確保など総合的に勘案するとともに、関係する方々の同意や自治会単位などの要望が必要となります。また、一方通行規制は、車両の通行がスムーズとなることで通過する車両を呼び込み、スピードを上げて走行する車両が増えるなどの懸念もあるため、警察と協議し、有効な安全対策を検討します。

○ 延命寺付近の通学路について保護者から不安の声を聞きますが、当地区の安全対策について見解を伺います。

○ 東部小学校の通学路として

新生児聴覚検査について

川原 千加子 議員

○ 生後3日以内に行う新生児聴覚検査によって、1千人に1人から2人の割合で先天性難聴が見つかると言われていますが、検査に対する本市の認識について伺います。

○ 聴覚障がい、早期発見と適切な支援により音声言語発達などへの影響が最小限に抑えられることから、重要な検査であると認識しています。

○ 検査の現状と市内医療機関の状況について伺います。

○ 平成29年度は、4か月児健康相談来所者70人中602人、86%の方が受診されました。市内では2医療機関で検査を実施しています。

○ 約100人の方が受診されなかった理由について伺います。

○ 出産した医療機関に検査機器がなかった、聞こえていないと考えています。

低年金でも入れる特別養護老人ホームなどについて

宮城 登美子 議員

○ 第7期介護保険事業計画における特別養護老人ホームの整備状況について伺います。

○ 140床の整備を位置づけました。

○ 平成27年度から制度が変わり、特別養護老人ホーム入所が原則要介護3以上となりましたが、改正による待機者数への影響について伺います。

○ 改正前は43人、改正後は253人で160人の減となりました。

○ 特別養護老人ホームでは、

て、グリーンベルトの設置による対策を講じてきましたが、ハンパや狭さくなど車両を走りにくくするなどの対策が近年実施されており、あらゆる側面から安全対策を検討します。



木下街道と並行する狭い道路

○ 経済的理由で受けない方もいると聞いています。検査費用の公費負担を一部自治体で実施しています。本市における実施を要望したいと思いますが、見解を伺います。

○ 公費助成を行う上では県内統一で実施することを県に要望しています。県では新生児聴覚検査検討会を設置したこと、その動向を注視したいと考えています。

○ 介護部分については厚生労働省告示により介護度別に単価が設定されますが、食費、居住費については保険外費用となり、各施設が定める金額となります。多床室であれば比較的安価となりますが、ユニット型の個室では金額も高くなります。なお、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅では、入居費用のほか介護認定を受け、介護サービスを利用されれば介護費用が別途必要となります。

市内にある私道について

針貝 和幸 議員

○ 鎌ヶ谷市内には現在約100キロメートルの私道があるとされていますが、なぜこれほど私道が多いのか、私道が生まれた経緯を伺います。

○ 本市では公道への帰属を前提とした大規模開発が少なく、小規模な宅地開発が多いという傾向があるためと推測されます。

○ 私道受け入れ条件の緩和について伺います。

○ 起点及び終点が公道に接続する150メートル以上という規定を延長にかかわらず認定できるようにしたほか、終端部に転回広場を有する道路の場合は延長200メートル以上必要だったものが、35メートル

不登校について

野上 陽子 議員

○ 不登校の状況を伺います。

○ 平成29年度の本市の不登校児童生徒数は、小学校が30名、中学校が70名です。小学校は増加の傾向が見られますが、中学校は横ばいの傾向にあります。

○ 不登校の中でふれあい談話室に通っていない子供の割合を伺います。

○ 家に閉じこもって出られず、ふれあい談話室等ともかわりがない状況の児童生徒は、不登校児童生徒のうち約8割に当たります。そのような児童生徒のいる家庭に対しては、平成29年度より配置された家庭訪問相談員が保護者や児童生徒とのつながりをつくることを目的に活動しています。

○ この相談員の増員予定について伺います。

市民活動総合保険について

松澤 武人 議員

○ 市民活動総合保険の内容について伺います。

○ 市民活動総合保険は、市民、公益活動団体が安心して活動を行えるよう活動中のけがや賠償責任を負うことになっています。

○ 現在、空き家や不在地主問題などがある中、高齢に伴い、私道を管理するのが困難になることが想定されます。補助金の復活は検討していたが、私道管理の見解を伺います。

○ 受け入れの相談をいただいた場合、手続きが円滑に進むよう支援し、要綱に基づき生活環境向上のため、受け入れを行いたいと考えています。

二和川治水対策について

石神 市太郎 議員

○ 準用河川二和川護岸改修事業の未整備区間について伺います。

○ 鎌ヶ谷保育園付近から船橋市の行政境まで約65メートルとなります。

○ いまもなお、大雨などの場合、道路の冠水が見られますが、まだ整備が足りない部分があるのか、今後の対策について伺います。

○ 老朽化が進んでいる護岸の改修を行い、河川の流下能力を向上させるため、引き続き改修工事を進めていく必要

待機児童対策について

池ヶ谷 富士夫 議員

○ 本年4月1日及び6月1日時点の待機児童数の現状について伺います。

○ 国基準の待機児童数は4月、6月ともにゼロです。なお、特定の施設のみを希望されるなど、国基準以外の待機児童数は、6月1日時点で57名です。

○ 国基準以外の待機児童のうち、待機が多い3歳未満児は何名いるのか伺います。

○ 3歳未満児の待機児童数は47名です。

○ 6月1日現在の公立保育園、民間保育所、小規模保育事業の定員数に占める入所児童数の割合を伺います。

○ 公立保育園93%、民間保育所98%、小規模保育事業70%となっています。

○ 小規模保育事業の入所率が低い理由を伺います。

○ 小規模保育事業は、ゼロ歳児から2歳児の子どもを対象としており、3歳からは別

や負傷などの傷害事故です。

○ 市が契約している保険と団体が加入している保険がありますが、団体が独自に保険に入る必要性について伺います。

○ 市民活動総合保険は、公益的な活動に従事する人の事故を補償するもので、講座やイベントの来場者は補償の対象外となり、これらの人を補償するためには、一般のレクリエーション保険等に入る必要があります。

○ 前回の一般質問での要望事項のうち、取り組んだ内容について伺います。

○ 馬込沢地区の準用河川二和川整備事業、鎌ヶ谷7・9丁目地区の護岸改修事業、雨水浸透ますの設置などを行いました。



鎌ヶ谷保育園付近の二和川

の保育園を利用する必要があることなどが要因になっていると思われま。

○ 今後の課題解決に向けての取り組みを伺います。

○ 小規模保育事業については、3歳未満児の利用申請の際に空き状況などを丁寧に説明し、入所率の向上に努めていきたいと考えています。

